

<b>〔科目名〕</b> 教職概論	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> 教職課程(必修科目)
<b>〔担当者〕</b> 西村 吉弘	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 初回の講義で連絡する。 <b>場所:</b> 同上。	<b>〔授業の方法〕</b> 講義及び演習
<b>〔科目の概要〕</b> 基本的な教職の理念、歴史、制度、実態など多面的な視点から学び、教職に対する理解を構造的に捉えることや、自己の教師としての自覚を深めることを目的とする。 児童生徒として見てきた教師像の形成に終始することなく、教師に課される職務を取り巻く構成や獲得すべき技術、更に刻々と変化する社会からの要請等、多面的に教職を捉えることによって、教師の全体像を掴むことが重要である。 本授業では、現代の日本の教師に求められる能力や職務の実態を学ぶことにより、その重要性や課題、問題点を総合的に理解することを試みる。		
<b>〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> 本授業は、教職を学ぶ上で入り口になる科目である。社会情勢の中で、学校の存在や教師の役割は時代と共に変化しており、これらを踏まえ教師になるうえでの素養を身に付けることが必要となる。よって、多面的な視点から教職に対する理解を深めることで、教育者としての資質能力の向上を目指すものである。		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> 本授業では、学校の教師という職業の実態を理解し、自身が目指す教師像と、そこへ至るために必要な力量形成について、具体的に考えることができることを目指す。そのため、以下の到達目標を設定する。 1 職務内容や使命、意義を理解する。 2 社会的な背景を踏まえ、日本の教師の特性と課題を理解する。 3 めざす教師像を自らアウトプットすることができ、また、そのための力量形成を追究することができる。		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> 特筆すべきものがあつた場合、コメントをする。尚、学生との対話は歓迎する。		
<b>〔教科書〕</b> 久保富三夫・砂田信夫編著『教職論』ミネルヴァ書房(2019)		
<b>〔指定図書〕</b> 必要に応じて、授業中に案内する。		
<b>〔参考書〕</b> 岩田康之・高野和子編著『教職論』学文社(2017)		
<b>〔前提科目〕</b> なし。		
<b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b> 基本的に、期末試験とレポートで判断する。尚、授業態度や授業時に指示する課題の取り組み方が芳しくない場合、期末試験・レポートの合計点から減点することがある。 提出されたレポートの結果や傾向については、授業内で解説を行う。		
<b>〔評価の基準及びスケール〕</b> 評価基準の割合:期末試験 80 点、レポート 15 点、平常点5点。		
<b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b> 予習、復習を丁寧に行うこと。特に、復習に時間を割き、知識を体系的に捉えられるようにしておくこと。		
<b>〔実務経歴〕</b> 該当なし。		
授業スケジュール		
第1回	テーマ(何を学ぶか): 教育学と教職論 内 容: 教育学と教職論の関係における構造を学ぶ。 教科書・指定図書『教職論』	

第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育実践を支える教育法規          内 容:日本国憲法や教育基本法などの、学校教育の基本法制を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):教員養成・採用・研修の一体化          内 容:教員養成における採用や研修、力量形成について一体的に学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):チームとしての学校          内 容:中教審答申に見られる「チームとしての学校」の背景や、専門スタッフとの連携を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):児童虐待問題と学校・教職員の役割          内 容:児童虐待を捉える視点や、対峙する際の教員の利点と役割を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):学校と学童保育・放課後子ども教室との連携          内 容:放課後子どもプランの成立や、放課後の学校化問題を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):いじめ問題への対応          内 容:いじめの定義、捉える視点、構造、問題発生時の対応を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):安全・安心の学校づくり          内 容:学校事故と教師の責任、学校の危機管理を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):省察          内 容:第8回までの授業をふり返り、教職とは何かについて再構成する。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の教師の役割と特性          内 容:学校の変化と教師の専門性の変容を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):教師の職能成長          内 容:教員に要請される能力の変遷と、研修、地域との協働を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):教職への学びー教員養成の学び全体から考える          内 容:教職課程の構造、省察と教師の成長、実践の問い直しの重要性を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):教師の力量形成ー学び続ける教師          内 容:教師のキャリア、ノンマニュアルとしての教師について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):教師の力量形成ー反省的实践家としての教師          内 容:省察を通じた教師の学びについて、実践事例から検討する。</p> <p>教科書・指定図書『教職論』</p>

第15回	テーマ(何を学ぶか):まとめ 内 容:これまでの学習全体の、まとめやふり返りを行う。  教科書・指定図書『教職論』
試 験	レポート。